



内視鏡技術認定医「胃がん」合格報告

このたび、日本内視鏡外科学会の「内視鏡技術認定医「胃がん」」に合格いたしましたので、報告させていただきます。

内視鏡手術は、従来の開腹手術と比べ、小さな傷で体の負担が少なく術後の回復も早い一方で、高度な技術が要求される専門性の高い治療です。本認定制度は、内視鏡外科手術において安全かつ適切に施行する技術と指導能力を有する医師であることを認定するものであり、多くの症例経験、学術的な業績に加えて手術ビデオの審査を経て認定がなされますが、**合格率は約30%**と狭き門となっています。

今回の合格を通して、これまで取り組んできた技術研鑽が認められたことを、大変光栄に感じております。これまでも指導くださった上司や先輩方、共に学んできた同僚の皆さん、そして日々の診療の中で多くの学びを与えてくださった患者さんに、心より感謝申し上げます。

安全で質の高い治療を地域の皆様に提供できるよう精進して参りますので、これからも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



やまもと 山本 常則 外科

このたび、ACPについての研修を開催しました。研修では、参加者に自分自身の「もしも」を想像してもらい、自分かどのような医療やケアを望むかを考えることから始めました。そこから、ACPの基本的な考え方や進め方に加え、日々の看護の中で患者さんの「その人らしさ」に寄り添う視点を持つ大切さについて、事例を交えて理解を深めました。

参加者からは、「日常の関わりの中でACPの視点を持つ大切さに気づいた」「日本人は生死について話すことがタブー視されがちだが、一人ひとりの個々の価値観を大切にすることは、ACPの実践が欠かせないと感じた」といった意見が寄せられました。当センターでは今後とも、ACPを日常の医療ケアに取り入れ、患者さんとご家族様が納得し安心して過ごせる支援体制づくりに取り組んでまいります。

ACP 人生会議

関門フォーラム

ACPってなに？

豊かな人生を過ごすために共に考える

当センターでは、人生の最終段階においても、患者さんが自ららしく生きる選択ができるよう支援する「ACP（アドバンス ケア・プランニング）」の実践を推進しています。

がん化学療法看護認定看護師
4C病棟看護部長
あずま なおみ 東 直美

家の植物たち

診療科：泌尿器科 けんじ けんじ けんじ けんじ けんじ けんじ けんじ けんじ けんじ けんじ

植物やリウズベツラン（アカベ）を集めるようになりました。暖かくなり成長が早くなったので、日々変化を観察しながら楽しんでいきます。

Dr. ちゃんねる

Q 出身地は？
山口県山口市出身です。高校は山口高校でした。

Q 今行きたいところは？
ペンギンが大好きなので海苔館に行くことを楽しみにしていましたが、残念ながら現在改修工事で閉館中でした。夏にリニューアルオープン予定とのこと、心待ちにしています。

Q おおすすめの場所は？
山口市中心商店街です。特にLOGO COFFEE ROASTERS（コーヒー専門店）とNo ichi（雑貨店）がおすすめです。

Q あなたが怖いものは何ですか？
いまだに採血と予防接種が苦手です。検診の度に憂鬱になります。

Q 関門医療センターのことが好き
病院の構造がシンプルなので道に迷わないところが良いです。もちろん窓からの景色もよく、晴れた日の海はとてもきれいで飽きません。

Q 今夢中なものは？
昨年から塊根植物やリウズベツラン（アカベ）を集めるようになりました。暖かくなり成長が早くなったので、日々変化を観察しながら楽しんでいきます。



下関市にて実践的な感染症対応訓練を実施

— 感染防護員の着脱訓練に焦点を当てて —

令和7年6月12日、下関市内の複数の医療機関が連携し、新興感染症の発生を想定した実践的な対応訓練を実施しました。当センターを含む地域の医療従事者が多数参加し、感染症への備えを再確認強化する貴重な機会となりました。

今回の訓練では、感染防護具（PPE）やタイベックスの正しい着脱方法に焦点を当て、安全で確実な使用手順を確認しました。N95マスクのフィットチェックやゴーグル、手袋、足袋などの装着手順、インナー手袋の使い方、フードのかぶり方といった細部にわたる確認を行いました。また、脱衣時には、感染リスクのある部分に触れないようアウター手袋を裏返しにします。

当センターでは、今後も地域の皆さまが安心して医療を受けられるよう、感染対策の徹底と継続的な研鑽に努めてまいります。

事務部長 ひでゆき 北村 英之

山口大学内科教授セミナー開催

この度山口大学の内科教授によるセミナーが開催されました。専門分野の研究内容や専門医取得までの流れについて学びました。また、グループに分かれ教授への質疑応答の時間も設けられ、貴重なアドバイスをいただきました。今後の臨床に役立て、将来山口の医療を担う一員として自信を持って進んでいけるよう、日々の研修に励んでいきたいと思っております。

研修医 ちか 石田 千賀

研修医を対象に、山口大学の5名の内科教授を迎えてセミナーが開催されました。

地方都市の医師不足が注目される中、山口県の医療の充実につながるよう研修部として尽力しています。

これからは各医療機関と連携しながら、地域医療を担う人材の育成に力を入れてまいります。

（研修部長 戒能聖治）



寄贈の御礼

今年度も、匿名で手作りタオルキヤップの寄贈がありました。

化学療法センターや救急外来の現場で、必要とされる患者さんにお配りして役立てております。

継続的に寄贈していただき、お心遣いにスタッフ一同大変感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。